

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年3月19日
函館市立深堀小学校

1 本年度の重点教育目標

気付き 考え 行動する子

2 本年度の取組の重点

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| ①カリキュラム・マネジメントの充実 | ②安心・安全な学校・学級づくり |
| ③目標に向かう努力を大切にする学習活動 | ④健やかな心身を育む学習活動 |
| ⑤学校における指導体制等の充実 | ⑥家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実 |

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価
①カリキュラム・マネジメントの充実	主体的・対話的で深い学びを実現させる学習活動を進めることができたか。	b	児童の主体性を高めるために、振り返る活動に継続的に取り組む。また、「学びの構え」（意欲的に学ぼうとし、準備している姿）を身に付けさせる。	A	A
	ICTを活用し「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実に向けた授業改善に取り組むことができたか。	a	児童用端末を効果的に用いてそれぞれの児童に応じた支援に心がけてきた。今後は、新しいソフトを用いて児童の意見交流の活性化を図り、協働的な学びの実現を図る。	A	A
②安心・安全な学校・学級づくり	支持的雰囲気大切に、明るく優しさに包まれた学年・学級経営を行うことができたか。	a	各教科や道徳の時間、学校行事などを通して、支持的雰囲気大切に、児童が安心して過ごすことができるよう支援した。	A	A
	いじめの未然防止と、児童に寄り添う適切な対応を行うことができたか。	a	いじめの未然防止・早期発見・早期解決に心掛け組織的に対応することができた。また、不登校児童には、その実態に応じた支援に努める。	A	A
③目標に向かう努力を大切にする学習活動	目標をもち、根気よく取り組むことを大切にする学習活動を進めることができたか。	b	児童の主体性を伸長するための「目標構築」のルーティンを確立する。「状態目標→結果目標→行動目標」を意識させる。	A	A
	自己肯定感や創造性など、非認知能力を育む学習活動を進めることができたか。	b	学習活動を展開していく中で、達成感や所属感を味わわせたり、成功体験を積み重ねていくことで、児童の自己肯定感を高める。	A	A
④健やかな心身を育む学習活動	自他の命を大切にする保健学習の充実を図ることができたか。	a	保健や道徳の授業の他にも、児童向けの保健便りの発行や毎日の健康観察等を通して、健康に関わる意識を高める。	A	A
	体力増進のため、楽しく運動する機会を確保することができたか。	a	休み時間の3分間走の取組や、なわとびコーナー・ドッジボールコート・サッカーゴールの設置など、児童がいつでも楽しく運動に取り組める環境の整備に努める。	A	A
⑤学校における指導体制等の充実	多様なニーズに対応する特別支援教育の充実を図ることができたか。	a	一時的なカームダウンを目的としたサポートルームを活用し、教室で困り感をもつ児童に対応する。	A	A
	子供と向き合う時間の確保と、質の高い教育活動創出に向けた業務改善を推進することができたか。	a	配布物におけるペーパーレス化、欠席連絡のICT化などにより、担任が子どもと向き合う時間の確保に努めることができた。今後もさらに業務改善を図り、質の高い教育活動を推進する。	A	A
⑥家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実	コミュニティ・スクールを基盤とした、家庭や地域、PTA等との連携を密にした教育活動を推進することができたか。	a	今後も、CSコーディネーターのご尽力のもと、町会やPTA、近隣学校や民間企業などと連携を深め、リアルな体験活動を充実させる。	A	A
	深堀中学校区における小中一貫教育の充実や、豊学校、保育園等との連携を図ることができたか。	b	中学校の授業参観に全職員で参加するなど交流を深めることができた。幼保小の連携については、教育課程に適切に位置付け、推進する。	A	A

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。